

熊楠ワークス

vol
29

ときどき、小学校や中学校に和歌山のお話に行きます。先日訪ねた小学校では、南方熊楠を知っている子どもが1クラス中5人ほど、中学校では1年生全員200人中10人ほどでした。和歌山市生まれの熊楠なのに、ちょっと残念。市駅前の銅像を知っている子も少なく、白浜の記念館に行ったことのある子はたったの1人でした。小学校に勤める弟に聞くと、一度や二度話をしたぐらいでは生徒の記憶には残らず、よほど先生が熱心か家族に興味があるかないと「知らんやろな」ということでした。

南方酒造「世界一統」の工場は、江戸時代和歌山で初めてできた学校跡で、吉宗が作ったということや、その近くで熊楠が生まれたということも知られていませんでした。郷土教育と呼ばれて随分たちますが、これが現実です。

そういえば、この子たちは22歳の「わかやま絵本の会」よりも若いのだ！そして、この子たちのお母さんやお父さんは、いや先生たちも、郷土のことを知るよりも試験勉強に明け暮っていたのだ。大人になってからも働きずくめだ。

心に遊びやゆとりを持つことは、何もかもがおもしろい！と感じることであり、そのことを南方熊楠は今もわたしたちに発進しつづけてくれています。



/ C / O / N / T / E / N / T / S /

第17回南方熊楠賞受賞者決まる …1面

第2回特別企画展 ごあんない …2面

南方熊楠の湯 安田忠典 …4面

「熊楠」生物覚え書④ 土永知子 …9面

熊楠ゆかりの地を訪ねる 中瀬喜陽 …10面

絵・エッセイ/
松下千恵(わかやま絵本の会代表)
絵は、絵本「南方熊楠」から